

平成22年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病(注意報第3号) 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	多 並 並	多 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 - 少 やや少 やや少	並 並 やや多 少 やや少 やや少
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ (防除情報第4号) ナシヒメシンクイ	少 やや少 並 並	少 やや少 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	並 並	やや多 並
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 やや少	並 やや少
果樹共通	カメムシ類(防除情報第5号)	やや多	やや多
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	並 やや多 並 並 少 並 やや少	並 やや多 並 並 少 並 やや少

【発生予報】

本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(41筆)の結果、食害株率は4.0%(3.5%)、発生圃場率は36.6%(34.1%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は24.0%(35.0%)、成虫の寄生は認めなかった(0.0頭)。

いちご

1. うどんこ病

平成22年5月18日付病害虫発生予察注意報第3号による。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発生を認めなかった(過去10ヵ年平均発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(32筆)の結果、寄生株率は1.1%(2.5%)、発生圃場率は15.6%(17.1%)であった。

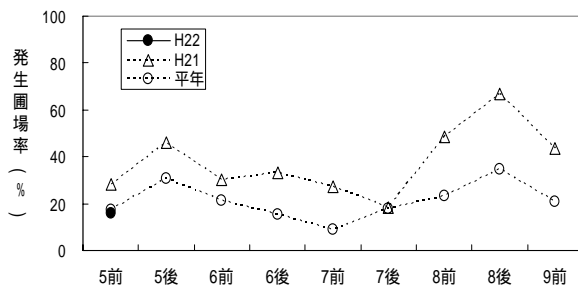


図 ハダニ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

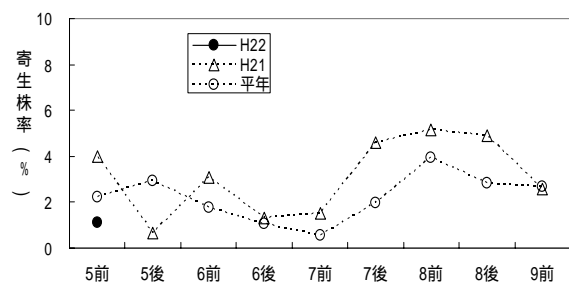


図 ハダニ類 寄生株率の推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(8筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は4.6頭(過去3ヵ年平均5.9頭)、発生圃場率は62.5%であった(過去3ヵ年平均81.5%)。

(3) 防除上注意すべき事項

5～6月はアザミウマ類が増加しやすい時期であるので、発生に注意し、早期防除に努める。

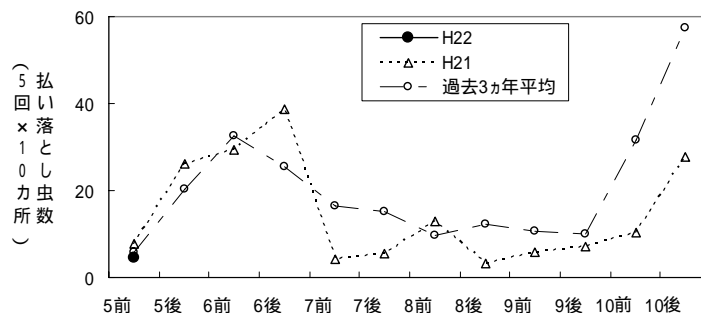


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)

払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.7%(2.9%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

向こう1ヶ月の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は0.2%(2.6%)、発生圃場率は15.4%(29.7%)であった。

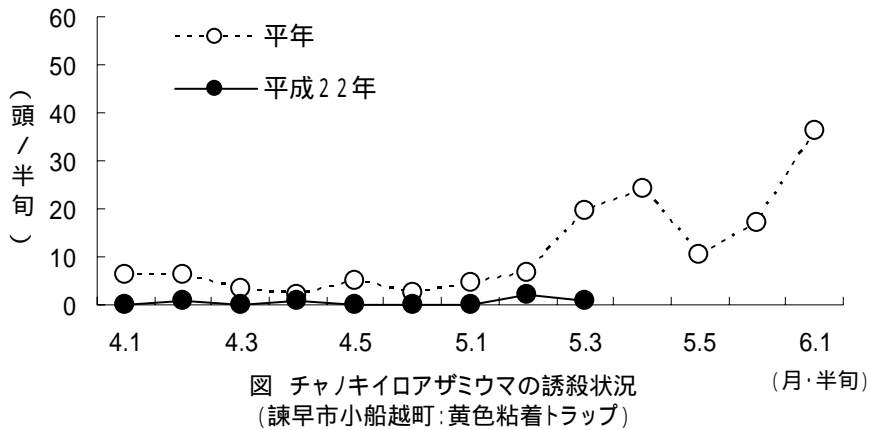
5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。



なお、第2世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	長崎	大瀬戸	口之津	佐世保	平戸
予測ピーク日	6 / 8	6 / 17	6 / 7	6 / 11	6 / 23
標高 (m)	27	43	10	4	58

注1：気温データは各地域のアメダスデータを使用した。

注2：平成22年5月16日時点で予測し、5月17日以降のデータは平年値を使用した。

注3：同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 表の予測発生ピーク日の5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 平成21年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの被害果率は0.0% (0.4%)であった。

イ 各地区における初発日と防除適期は、下表のとおり予測される。

表 ヤノネカイガラムシの初発日と防除適期予測日

観測点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
初発日	5/6	5/8	5/6	5/5	5/8	5/7	5/10	5/10
前年初発日	5/4	5/6	5/4	5/3	5/5	5/5	5/9	5/10
IGR剤防除日	5/31	6/2	5/31	5/30	6/2	6/1	6/4	6/4
有機リン剤防除日	6/15	6/17	6/15	6/14	6/17	6/16	6/19	6/19
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58

- 注1：方法は「果樹防除適期判定システム（ヤノネカイガラムシ）」を利用した。
 注2：初発日は気象庁アメダスの気温データを用いて算出し、防除適期は IGR 剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。
 注3：同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.9%、発生圃場率37.5%)。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率0.3%(1.3%)、発生圃場率は20.0%(36.3%)であった。

3. ナシマルカイガラムシ

平成22年5月18日付病害虫発生予察防除情報第4号による。

4. ナシヒメシクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年並で推移している(図)。

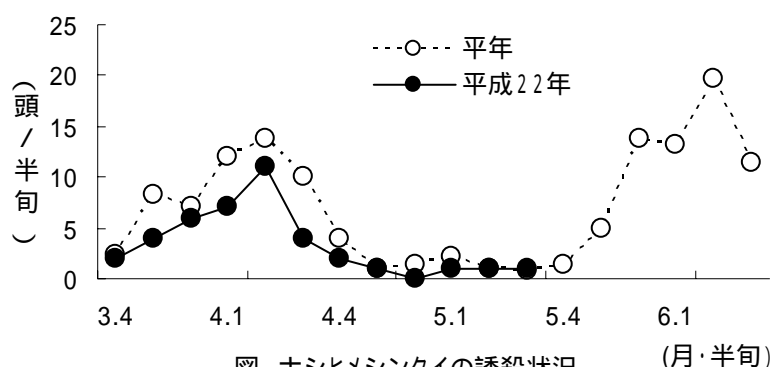


図 ナシヒメシクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率0.2%(0.3%)、発生圃場率25.0%(24.5%)、発病果率0.1%(0.1%)、発生圃場率16.7%(8.2%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は、平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

圃場周縁部などの薬液がかかりにくい部分は、葉の表裏に付着するよう、十分量を散布する。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は1.0%(0.9%)、発生圃場率は33.3%(20.4%)であった。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率0.0%(0.0%)、発生圃場率16.7%(6.3%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少く推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

平成22年5月18日付病害虫発生予察防除情報第5号による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年の平均発病葉率0.0%、発生圃場率2.5%)。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり葉巻数0.0枚、発生圃場率3.1%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、5月1半旬に急増し平年より多い(図)。

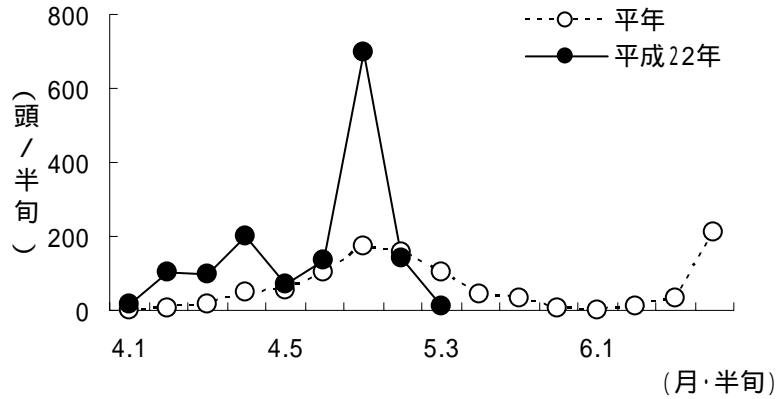


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数0.0枚(0.1枚)、発生圃場率10.0%(10.2%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は4月2半旬に増加したが、その後は平年並で推移している(図)。

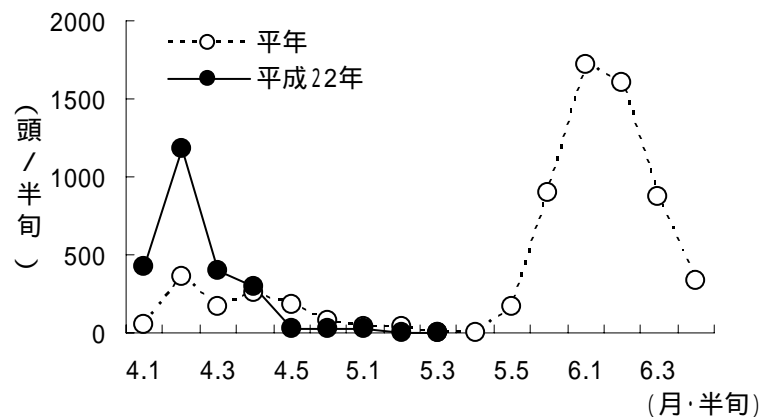


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.3頭(0.9頭)、発生圃場率は30.0%(26.3%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は0.8頭(9.1頭)、発生圃場率は40.0%(51.6%)であった。

6. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は6.7%(5.6%)、発生圃場率は45.0%(36.6%)であった。

7. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.0%(0.6%)、発生圃場率は5.0%(20.0%)であった。

【参考】
気象

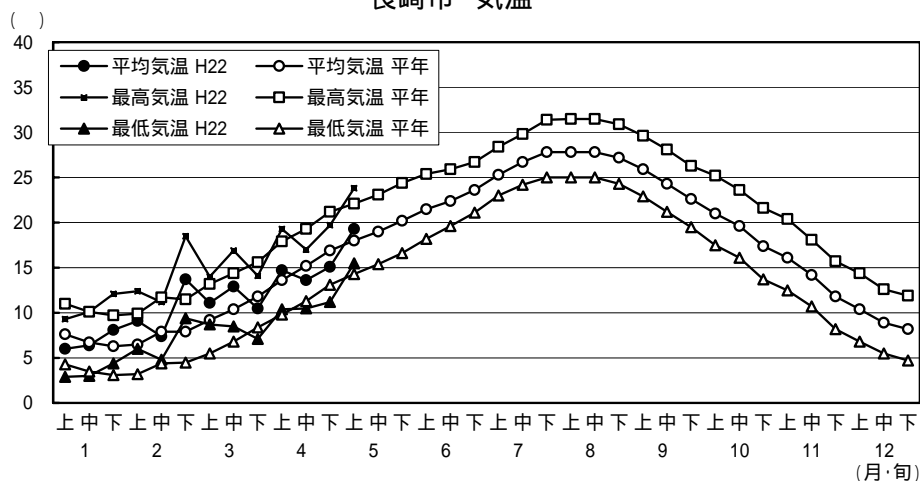
(平成22年5月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

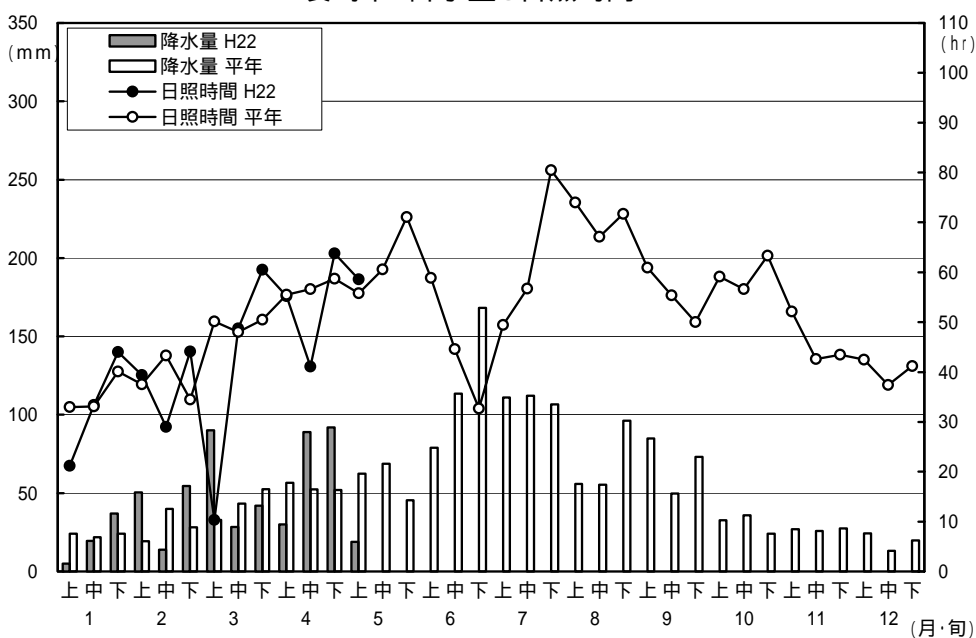
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027